

取扱説明書

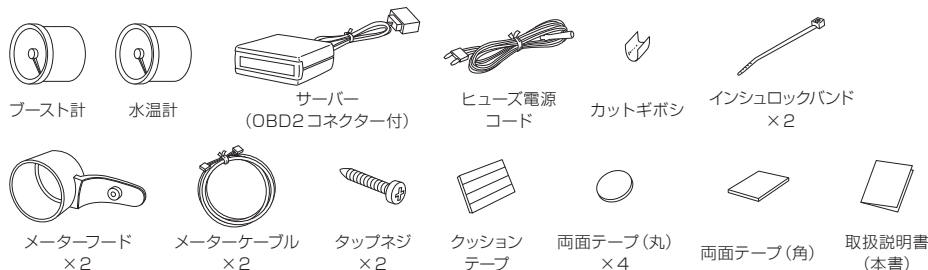
この度はPIVOT製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書は良くお読みいただき大切に保管してください。

52X-BW EURO SPEC

<p>警告 下記内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●換気の悪い場所で作業しない 排気ガス中毒や引火等で人体への危険があります。 ●製品は安全な場所へ確実に固定する 使用中に製品が外れブレーキなどに挟まると運転操作が行えず大変危険です。 ●コードの被ふくを傷付けない ショート・接触不良等による火災、通信不具合による電装部品・エンジン・車輪破損の危険があります。 ●運転中に操作をしない 運転中の製品操作や表示確認は事故の原因となりますので、安全に十分配慮してご使用ください。 ●配線はテープなどで収納する 配線処理や製品固定は運転の支障や接触不良とならない状態にしてください。 	<p>注意 下記内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性と製品その他に物質的損害が発生する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●DC12V車で使用する 本製品はDC12V車用で、それ以外の電圧には装着できません。 ●装着直後は製品に強い力を加えない 両面テープによる製品固定は装着初期ははげやすくなっていますのでご注意ください。 ●薬品類は使用しない ゴミ・汚れが付着した場合はアルコール・シンナー・ベンジンなどの薬品類は使用せず、やわらかい布などで丁寧にふき取ってください。 ●高温となる場所や水のかかる場所へ装着しない 故障の原因となります。 ●ネジ・部品は元の状態に戻す ●眩しく感じる場所へ装着しない ●加工・分解および改造をしない
---	--

! 1. ECUが純正品と異なる場合やサブコンなどをご使用の場合、対応車でも適正表示しないため、対応不可です。
2. 他社の故障診断コネクタを利用する製品との併用はできません。
3. 故障診断コネクタを利用するPIVOT製品との併用については、こちらをご確認ください。⇒ <http://pivotjp.com/obd/>
4. メーターフードは日光等で非常に熱くなることがありますので、火傷等には特に注意してください。

内容物をご確認ください



52X-BWの特長

故障診断コネクタに差し込むだけでMINI専用のCAN通信を解析し、ブースト・水温を表示できるメーターです。(対応車以外は不可)

- ボン付け装着** 故障診断コネクタとヒューズBOXへの簡単装着。
- さらに低価格** メーターホルダーを金型成形にし、お求めやすい低価格を実現。
- 新型ホルダー** 密着性が高く軽量な新設計のメーターホルダーで、振動による揺れの少ない装着が可能。
- 同色照明** メーター照明は純正と同色のオレンジ色を採用。(動作中は常時点灯)

各表示と用途

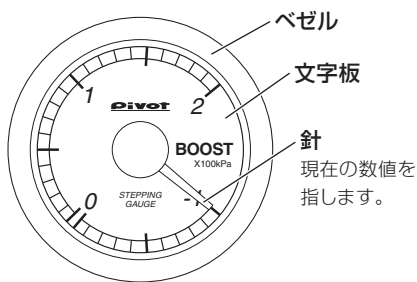
項目	ブースト計 (絶対圧表示※)	水温計	オープニングデモ
表示	-100~154 kPa	20°C~120°C	エンジンを開始すると、針がマイナス方向に小刻みに複数回動きます。その後最大値を指し、現在の表示項目に移行します。
用途	●ブーストチェック ●エコ走行用【バキューム】 など	●オーバーヒート ●暖機チェック など	
表示例	 70 kPa -40 kPa	 95°C	

※絶対圧表示は気圧を含みますので、相対圧(機械式)と多少数値が異なる場合があります。
※キー ON時のブースト指針は、標高に応じて多少マイナスの表示となる場合があります。

! ブーストリミッターカットをしている場合は、正常に表示できない場合があります。

各部の名称

●メーター



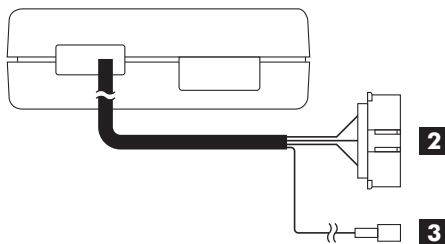
●サーバー

(メーター接続側)



1

(車両接続側)



2

3

1 メーター出力コネクタ
メーターケーブルを接続

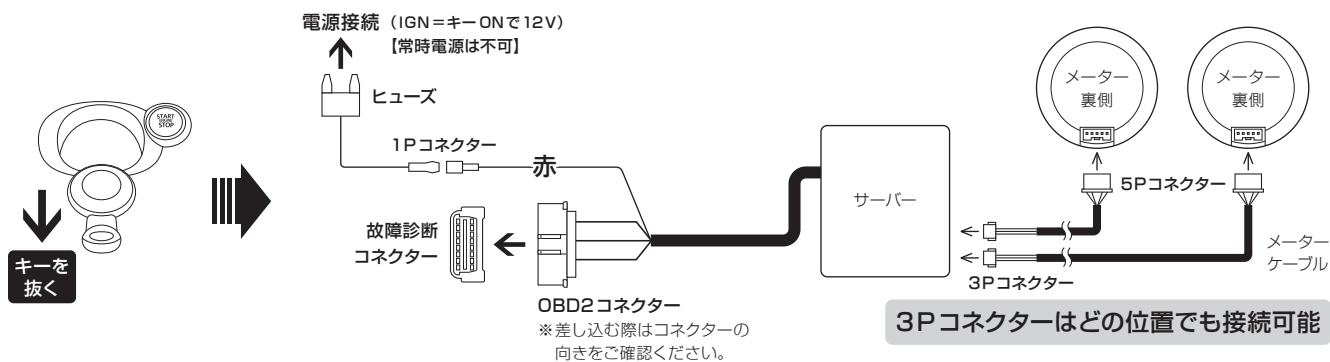
2 OBD2コネクタ
通信信号を得るために接続

3 1Pコネクタ
ヒューズ電源コードと接続

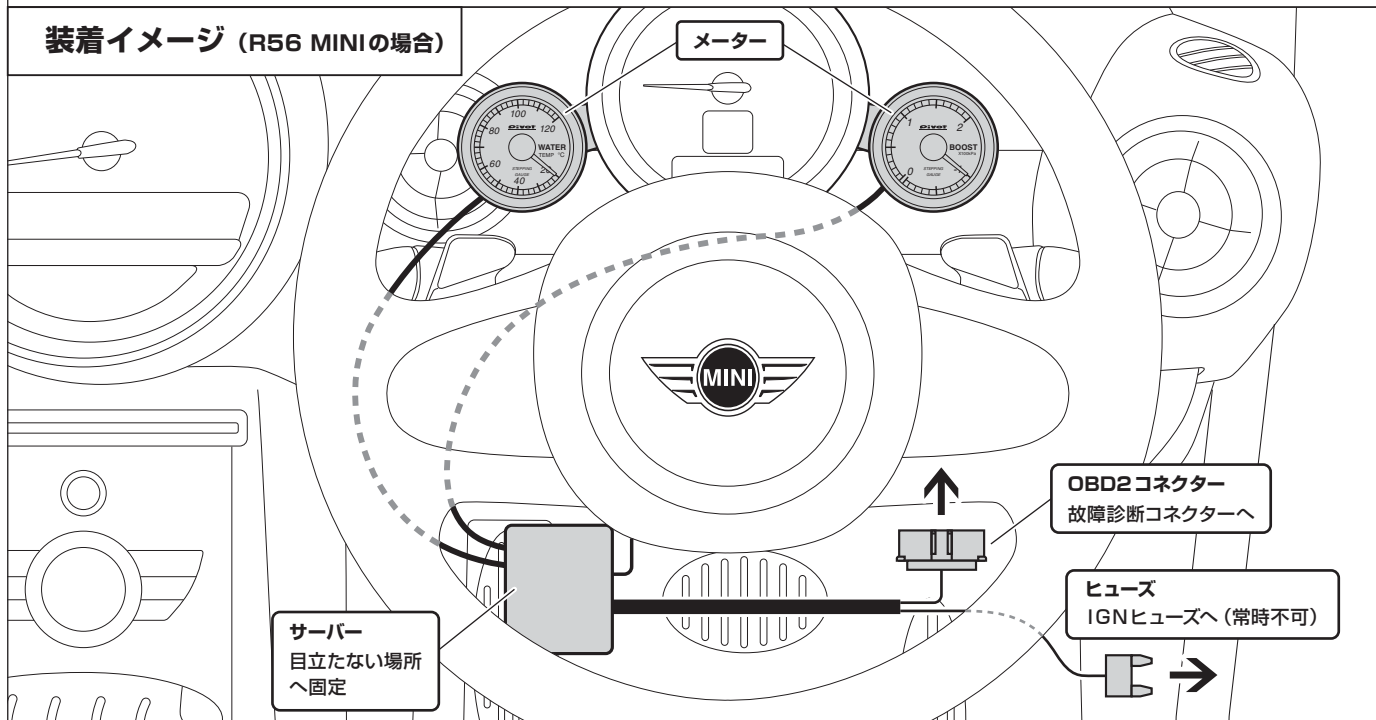
配線接続方法と固定方法

基本配線図

各配線はキーをOFFにし、抜いた状態で行ってください。



装着イメージ (R56 MINIの場合)



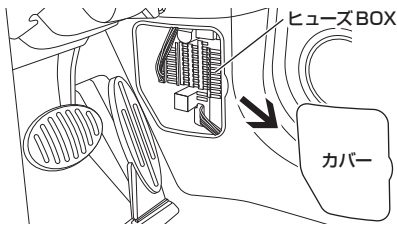
1

電源接続を行う

下記はBMW MINI クーパー S MF16SでヒューズBOXへ配線する場合の一例です。
その他の車種で不明な場合はディーラー等でご確認ください。

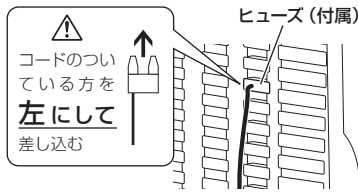
① ヒューズBOXのカバーを外す

運転席右横のカバーを⊖ドライバーなどを使って外します。

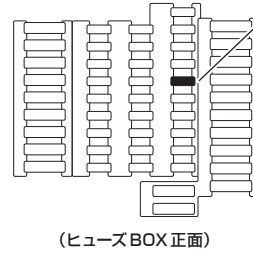


② 指定ヒューズへ接続する

ヒューズBOXのIGN供給できるヒューズ(キーONで12V、常時電源は不可)を抜き、付属のヒューズ電源コードをそこへ接続します。



【参考1】指定ヒューズ位置例



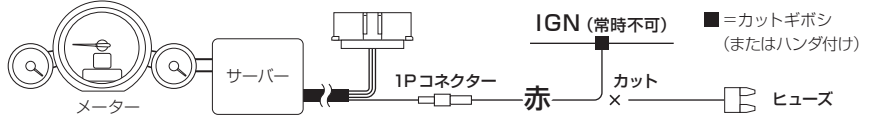
BMW MINI クーパー S MF16Sの場合
(右ハンドル車・2008年モデル)

位置 = 左から4列目、
上から5段目
番号 = 32または34
容量 = 7.5A

※7.5Aのミニヒューズ以外から電源を取りたい場合は、市販のヒューズ電源をご使用ください。



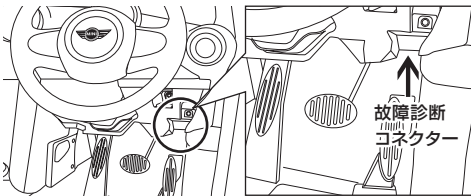
ヒューズBOXで電源が取れない、もしくは取りたくない場合は、IGN(キースイッチONで12V)へ直接配線を行ってください。※OBD2コネクタから出ている赤コードへは接続しないでください。



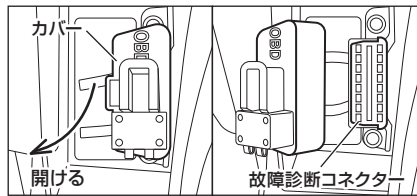
2

OBD2コネクタを接続する

① 診断コネクタ位置を確認する

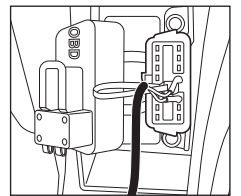


② カバーを開ける



③ OBD2コネクタを根元まで差し込む

サーバーから出ているOBD2コネクタを故障診断コネクタの根元まで差し込みます。



OBD2製品の併用について

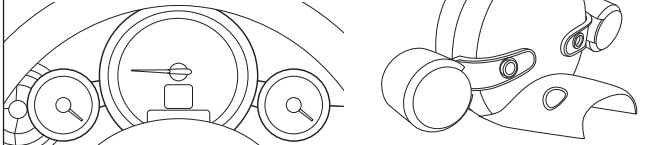
本製品を3-driveシリーズ(FLAT、COMPACT)、PROGAUGE、REV LAMPシリーズと併用する場合、別売のOBD2配線キット(OBD-EH ¥3,360・税込)を使用すると簡単に取り付けられます。製品の併用についての詳細は、こちらをご覧ください。<http://pivotjp.com/obd/>

※本製品と上記の製品を併用する場合は、それぞれの対応車に該当する車種のみとなります。

3

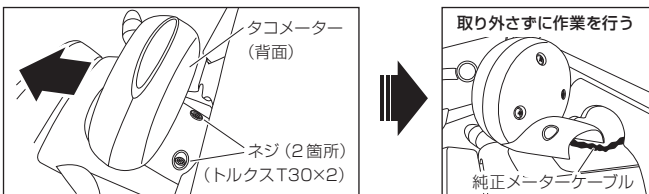
メーターとメーターフードを固定する

付属のメーターフードを純正タコメーター背面の左右のネジに固定します。



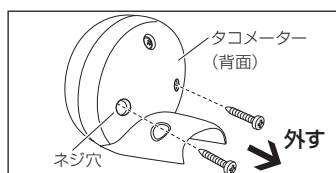
① 純正タコメーターを外す

純正タコメーター背面の台座の部分にある2箇所のネジ(トルクスT30×2)を外し、メーターを手前に引き出します。(純正タコメーターの配線はステアリングコラムカバー内までつながっているため取り外せません。配線を引き出したままで作業を行ってください。)
※外したネジはなくさないようにしてください。



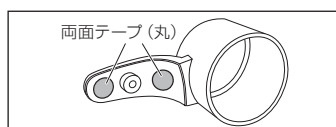
② 純正タコメーター背面のネジを外す

純正タコメーター背面のネジ穴にあるネジを外します。
※外したネジは大切に保管してください。



③ メーターフードのステー部に両面テープ(丸)を貼る

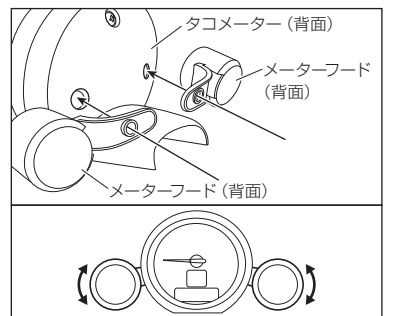
付属の両面テープ(丸)を、右図のように2箇所張り付けてください。



④ メーターフードを仮固定する

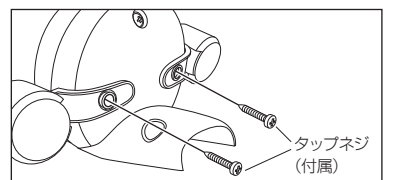
純正タコメーター背面のネジ穴とメーターフードのネジ穴を合わせ、両面テープで仮固定します。
※強く押さえつけると両面テープがはがれにくくなりますのでご注意ください。

左右の位置が同じになるよう微調整してください。



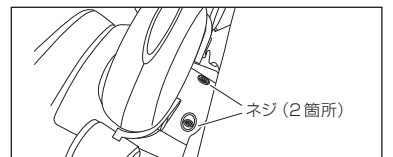
⑤ メーターフードをネジで固定する

付属のタップネジを使用して固定します。



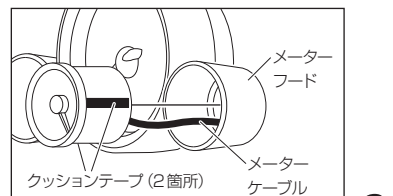
⑥ タコメーターを元の位置に戻す

①と逆の手順で純正メーターを元の位置に戻し、ネジで確実に固定します。



⑦ メーターフードにメーターを固定する

付属のクッションテープをメーター側面に2箇所貼り付けます。メーターフード裏の穴からメーターケーブルを出し、メーター裏の5Pコネクタに差し込んだら、角度を決めてメーターを押しフードへ固定してください。



4 サーバーとケーブルを接続・固定する

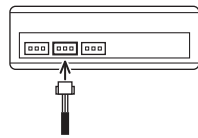
① メーターケーブルとヒューズ電源コードをサーバーと接続します。

●メーターケーブル

**3P
コネクタ**

サーバーの3Pコネクタへ接続。

※3Pコネクタはどの位置へ接続してもかまいません。



●ヒューズ電源コード

**1P
コネクタ**

サーバーの黒チューブから出ている
1Pコネクタへ接続。



② サーバーを目立たない場所へ両面テープ(角)を使用して固定します。

③ 余ったすべての配線を束ね、付属のインシュロックバンドで固定してください。

【参考2】カットギボシの使い方

1	10mm 接続するコードの被ふくをむく。	2	10mm 製品コード先端の被ふくをむく。
3	両方の芯線を絡める。	4	確実にかしめる。
5	ビニールテープで絶縁する。	※かしめる際は圧着ベンチを使用するか、ペンチで折りたたみ、半田付けなどを行ってください。	

【参考3】OBD2コネクタの取扱注意

差し込み時/抜き取り時はこの凸部を持って行う。

凸部が握れない場合

車種により、コネクタが奥まで入り、凸部が握れない場合があります。

注意 コネクタを抜く際は、コードを持って引き抜くのは絶対におやめください。断線の恐れがあります。

インシュロックの輪の部分を持って引き抜く。

基本操作方法

- 1**

START ENGINE STOP
START

キースイッチ ON
(エンジン始動)
- 2**

オープニングデモ
(同時始動)
- 3**

リアル表示
各メーターがリアル表示を行います。
- 4**

START ENGINE STOP
STOP

キースイッチ OFF
(エンジン停止)
- 5**

メーター OFF
特性上、針はキー OFF 時の位置で止まります。

故障と思われるまえに

症状	原因	対策
エンジン始動で動作しない。	メーターケーブル、OBD2コネクタ、ヒューズ電源の接続不良。 電源を直接配線した場合の赤コードの配線間違いか接触不良。	メーターケーブル、OBD2コネクタ、ヒューズ電源の接続状態を確認する。
オープニングデモは行いが、その後止まってしまう。	対応外の車種に取り付けている。	対応車種表をご確認ください。
表示が純正や他のメーターとズれる。	対応外の車種に取り付けている。 本製品の各表示数値はクルマ側のECUの情報で、一部車種で純正や他のメーターと誤差が生じる場合があります。	対応車種表をご確認ください。
ブースト圧表示が純正や他のメーターとズれる。	本製品のブースト計は絶対圧式で、相対圧式のメーターとは表示がズれる場合があります。	
キー ON 時ブースト指針がマイナスになる。	絶対圧センサーは気圧分をマイナスして表示します。(例: 標高700m地点=マイナス8kPa)	
オープニングデモ前に針が一瞬動く。	メーターの特性で異常ではありません。	